

現行の授業科目・試験方法

◇ 授業科目一覧

一般教養科目		専門教育科目			
科目	授業名	科目	授業名	科目	授業名
人文科学	哲学	育林・生態	造林学	林産	木材物理学
	心理学		森林保護獣害対策学		木材加工学
	文学		樹木医学		特用林産学
社会科学	法学		樹木学	森林政策	林政学
	社会学		森林生態学		林業概論
	経済学		森林土壌学	校外研修	校外研修
自然科学	数学	森林気象学	体験研修	総合実習	
	物理学	測樹学		体験研修	
	化学	林業経営学	特別講座	自主研究	
	生物学	簿記		特別講座	
	情報処理学	森林計画・普及論	インターンシップ	インターンシップ	
外国語	英語	森林資源管理	木材商業論Ⅰ	森林管理コース (選択)	林道工学
芸術	彫刻		森林情報論		治山工学
保健体育	体育		森林地質学	野生鳥獣対策	
			治山工学	施業プラン作成	
			林道工学	林道工学	
			造園学	素材生産実習	
			測量学	木造建築構造概論	
			森林風致計画学	木材加工学	
			救急救命	木材商業論Ⅱ	
			保健休養学		
		林業機械学			
		林業架線学			

◇ 試験方法

一般入試	推薦入試
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 審査内容 ・人物考査 (200点) : 面接 ・筆記試験 (200点) : 高校卒業程度の基礎学力を問う総合問題 (国語、数学、英語) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 審査内容 ・小論文 (60分) 及び人物考査

他の大学等における3つのポリシー

参考2

長野県立大学：学科ごとにそれぞれのポリシーを設定

◆ グローバルマネジメント学科

<p>ディプロマ・ポリシー (DP) 育成する人材像</p>	<p>グローバルマネジメント学科は、教育目標を実現するために設けた所定の専門教育科目と総合教育科目を履修することにより、次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与します。</p> <p>【共通】・グローバルな英知、多様な価値観や異文化を理解し、交流するための教養と発信する能力 ・豊かな人間性と高い倫理観を持ち、自律的に目標を掲げ、協働して実現するためのリーダーシップと実現の道筋を論理的に見極める能力 ・未来を切り拓き、グローバルにチャレンジできるための専門的知識とたくましく生きる能力 ・グローバルな視点から、現代社会の多様な課題に対して論理的に思考する能力</p> <p>【グローバル・ビジネスコース】 企業経営の諸課題を的確に把握する専門知識を持ち、その課題解決のためにマネジメントする能力</p> <p>【(企)業家コース】 社会や地域について問題意識を持ち、新たな事業機会を発見し、事業創造を企画する能力</p> <p>【公共経営コース】 地域社会の諸課題を的確に把握するための公共経営に関する専門的知識を持ち、その課題解決のため企画立案する能力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (CP) 教育課程編成・実施方針</p>	<p>グローバルマネジメント学科は、教育目標を実現するための同学科のディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身に付けることができるよう、総合教育科目において、聴いて内容の主要な点を理解できるレベルの英語力を育成する英語集中プログラムと幅広い教養を身に付ける科目によるカリキュラムを編成するとともに、専門教育科目において、専門教育の導入科目として位置付ける科目を必修科目として配置し、また、海外実地研修を配置した「学部共通専門基盤科目」、各コースにおける基盤となる科目を配置した「コース専門基盤科目」、専門的知識の幅を広げる科目を配置した「展開科目」によるカリキュラムを編成します。</p> <p>なお、専門教育科目においては、同学科のディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力について、次の4つのカテゴリーを設定し、それぞれの力を体系的に学修するためのカリキュラム編成とします。</p> <p>【カテゴリー①】 人間性・社会人基礎力 多様な価値観と異文化への理解／交流するための知識と表現する力（発信力）／豊かな人間性と高い倫理観／自律性／協働する協調性／論理的な思考力／数学的な思考力</p> <p>【カテゴリー②】 事業経営力 リーダーシップ／現代社会の課題を発見する力／企業経営の諸問題を把握する力</p> <p>【カテゴリー③】 事業創造力 実現のための道筋を見極める能力／ビジネスするための知識と行動力／事業創造の知識と企画提案力</p> <p>【カテゴリー④】 公共経営力 地域社会の問題認識力／政策立案するための知識と企画力／地域社会のリーダーとしての行動力</p>
<p>アドミッション・ポリシー (AP) 入学者受入方針</p>	<p>グローバルマネジメント学科の教育目標に共鳴し、挑戦する強い意欲を持って学ぼうとする、次のような資質・能力を備えた者を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学に関する確かな専門的知識を身に付けて、将来、ビジネス・リーダーとしての活躍、社会や地域の課題解決のための事業創造、課題解決のために活動するリーダーとなることを志す者 ・英語集中プログラムと海外プログラムを通して、聴いて内容の主要な点を理解できるレベルの英語力とグローバルな視野を身に付け、社会で活躍したい者 ・寮生活を通して、豊かな人間性と高い倫理観を身に付け、協働して目標を達成することを志す者

◆ 食健康学科

<p>ディプロマ・ポリシー (DP) 育成する人材像</p>	<p>食健康学科は、教育目標を実現するために設けた所定の専門教育科目と総合教育科目を履修することにより、次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的知識と技術を身に付け、論理的・科学的に考察する力 ・人との関わりを大切に、食を通して人々の健康を支える力 ・生涯にわたり、主体的な学びを継続する力 ・食文化や食習慣について探究できるグローバルな視野を持ちつつ、地域において食を通じた健康に関する活動を実践する力 ・管理栄養士としての倫理観に則り、ミッションを達成できる力
---	--

カリキュラム・ポリシー (CP) 教育課程編成・実施方針	<p>食健康学科は、教育目標を実現するための同学科のディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身に付けることができるよう、次の特徴を有するカリキュラムを編成します。総合教育科目において、英語力と教養を身に付けるとともに、専門教育科目において、栄養士免許、管理栄養士の国家試験受験資格のほか、栄養教諭一種免許状が取得できるよう系統的・段階的な履修ができる編成とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を発見して、科学的根拠に基づいた望ましい食を提案する力を醸成するための食の現状と課題について広く学ぶ教育プログラム ・専門教育科目における専門基礎科目と専門科目を系統的・段階的に配置して基礎と実践の関係性を重視する科目体系 ・学生が主体的に学ぶ姿勢を培うための演習におけるディスカッションの実施や実験・実習の充実 ・コミュニケーション能力やリーダーシップを涵養する科目の専門教育科目への配置 ・論理的・科学的に考察する総合的な能力を高める卒業研究や、基礎的な知識・技術に基づいて実践力を高める総合演習 ・即戦力となる能力を育成するための多彩な実習内容と時間を確保した臨地実習 ・聴いて内容の主要な点を理解できるレベルの英語力を育成するための英語集中プログラムと異文化体験による視野の拡大、国際感覚、主体的な行動力を育成するための海外プログラム ・教員と学生が一体となって、教育・研究に取り組むための少人数教育の実施
アドミッション・ポリシー (AP) 入学者受入方針	<p>食健康学科では、管理栄養士の資格取得をめざした教育を行います。その教育目標に共鳴し、挑戦する強い意欲を持って学ぼうとする、次のような資質・能力を備えた者を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりを大切にし、楽しく豊かな食を創造する者 ・人々の生命を支える食の営みを、科学的に探究することに情熱のある者 ・管理栄養士としての専門性を生かして、長野県の健康長寿の発展に貢献したい者 ・英語集中プログラムと海外プログラムを通して、聴いて内容の主要な点を理解できるレベルの英語力とグローバルな視野を身に付け、社会で活躍したい者 ・寮生活を通して、豊かな人間性と高い倫理観を身に付け、協働して目標を達成することを志す者 ・栄養学の土台となる化学や生物などの基礎学力を身に付けている者

◆ こども学科

ディプロマ・ポリシー (DP) 育成する人材像	<p>こども学科は、教育目標を実現するために設けた所定の専門教育科目と総合教育科目を履修することにより、次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健やかにこどもが育つための課題を明らかにし、子育てや保育について探究できるグローバルな視野を持ちながら、地域や社会の特性を生かした保育を創造する専門的知識と支援力 ・保育や教育の場でこどもと保護者を支え、より良い子育て・子育て環境を創造する論理・実践力 ・乳幼児期のこどもの特性を理解し、豊かな表現力と感受性をもって乳幼児にふさわしい保育・教育を総合的に計画・展開する力 ・保育者として学び続け、他者との協働によって課題を解決するための課題発見、情報収集、分析思考力、表現力、コミュニケーション力などの汎用的能力
カリキュラム・ポリシー (CP) 教育課程編成・実施方針	<p>こども学科は、教育目標を実現するための同学科のディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身に付けることができるよう、次の特徴を有するカリキュラムを編成します。総合教育科目において、英語力と教養を身に付けるとともに、専門教育科目において、専門性の基礎となる科目を必修とした上で、柔軟かつ多様な思考力、創造力、実践力を育むために全体として科目の選択的履修を重視した編成とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育・幼児教育の基盤となる自然や文化、地域的な特徴などの環境について理解し、そこに成り立つ保育や教育のあり方について広く学ぶ教育プログラム ・聴いて内容の主要な点を理解できるレベルの英語力を育成するための英語集中プログラムと異文化体験による自国保育の理解を含むグローバルな視野の拡大、国際感覚、主体的な行動力を育成するための海外プログラム ・保育の基礎的な知識や技能を獲得し、こどもの主体性や表現力を育成する保育を展開するための知識や技能、組織のあり方などについて学ぶ科目体系 ・こども、子育ての状況や課題について広く学び、今日的な課題の実践的理解と課題解決力を醸成する科目の充実 ・学修によって身に付けた知識や技能を専門的立場から社会に還元する幼稚園教諭免許状や保育士資格が取得できる養成プログラム ・主体的な学びを通して、課題発見力、情報の収集・分析力、表現力、コミュニケーション力などを育成する双方向による少人数ゼミの充実
アドミッション・ポリシー (AP) 入学者受入方針	<p>こども学科の教育目標に共鳴し、挑戦する強い意欲を持って学ぼうとする次のような資質・能力を備えた者を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもを愛し、その幸せを実現する意欲と志を持っている者 ・こどもの健やかな成長・発達を支援する環境や教育について、科学的に探究し、行動する習慣と粘り強さを持っている者 ・幼稚園教諭免許状、保育士資格を取得し、その専門性を生かして地域に貢献したいという意欲を持っている者 ・自ら求めて考え、行動し、協働しながら学び、より良い保育を創造する多様な資質を持っている者 ・英語集中プログラムと海外プログラムを通して、聴いて内容の主要な点を理解できるレベルの英語力とグローバルな視野を身に付け、社会で活躍したい者 ・寮生活を通して、豊かな人間性と高い倫理観を身に付け、協働して目標を達成することを志す者

信州大学：大学全体 及び 各学部それぞれのポリシーを設定

◆ 大学全体

<p>ディプロマ・ポリシー (DP) 育成する人材像</p>	<p>信州大学は、豊かな自然環境と、伝統ある歴史と文化に恵まれた信州に立地する大学です。本学では、かけがえのない自然や文化を愛する気持ちをもって、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、高度な専門知識と能力を備えて自ら課題を発見し、その解決にむけて挑戦する心をもった個性豊かな人材を育てることを理念・目標に掲げています。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育（教養教育、基礎教育）、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。</p> <p>豊かな人間性 ・みずから他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】 ・理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】</p> <p>人類知の継承 ・人類の知を継承し、それらの成果の上立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】 ・世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】 ・科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】</p> <p>社会人としての基礎力 ・日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】 ・対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】 ・多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】 ・みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】</p> <p>科学的・学問的思考 ・自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】 ・専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】 ・専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】</p> <p>環境マインド ・信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】 ・自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】 ・地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (CP) 教育課程編成・実施方針</p>	<p>学士課程における教育課程編成の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信州大学は、学部及び学科又は課程の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成します。 ・信州大学は、教育課程の編成に当たっては、学部の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮します。 <p>学士課程における教育課程実施の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信州大学「学位授与の方針」に定めた、卒業時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸能力等を修得する方法が理解しやすいように配慮します。 ・信州大学は、学生個々人の主体的で活発な勉強意欲を促進する立場から、予習・復習等、授業時間外のさまざまな機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。 ・信州大学は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、複次的・複層的な積み上げによる成績評価を行います。
<p>アドミッション・ポリシー (AP) 入学者受入方針</p>	<p>信州大学は、真理への探究心とチャレンジ精神を培い、高度な専門知識と深い思索力を基にして、課題を探求し解決する能力を備えるとともに、豊かな人間性と広い視野をもち、身につけた知識や技術を人類文化と社会の持続的発展に役立て、世界の平和と自然環境の保全のために活かすことのできる、意欲あふれる若者を育てることを教育の目標にしています。したがって、この教育を受けるために必要な高等学校修了段階の基礎学力を有する人を求めています。</p> <p>大学入学までに履修すべき教科・科目</p> <p>在籍する高等学校等が、学習指導要領に従って定める教育課程表に沿って、履修するすべての教科・科目について、十分に履修し、相応の学力を身につけていることが望まれます。また、志望する学部や学科ごとに、入学後の授業内容を理解するために履修が必要な教科・科目が示されている場合は、それらの科目の内容を十分に理解していることが望まれます。</p>

◆ 農学部

ディプロマ・ ポリシー (DP) 育成する人材像

信州大学農学部理念と目標に則り、以下の知識と能力を充分培った学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

- ・豊かな人間性と幅広い教養を修得している。
- ・農学に関する広い知識・技術を修得している。
- ・専門的な知識や研究能力を修得している。
- ・地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している。

生命機能科学コースの学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- ・生命現象の基本的なしくみと多様性について理解している。
- ・有機化学、生化学、分子生物学、微生物学などの基礎学力を修得している。
- ・生命科学・食品科学分野の基礎知識と、生命現象やバイオテクノロジーに関する専門知識を修得し、それを応用する能力を有している。
- ・生命工学・食品科学分野において、グローバルな視点から知的社会の発展に貢献できる能力を修得している。

動物資源生命科学コースの学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- ・動物の生命現象ならびに動物関連産業に関わる基礎学力を有している。
- ・動物の生殖制御技術や動物由来の機能性食品、ならびに関連分野の倫理性に関わる専門的知識を身につけ、それを応用、実践できる行動力を有している。
- ・動物の生命現象やその操作、ならびに動物資源や機能性食品の開発、生産についての課題を探究し、国際的視野で動物と人類の健康と福祉に貢献できる能力を身につけている。
- ・動物資源生産と生命現象等に関わる課題について、革新的な発想力と幅広い視野に立脚した研究展開力を有している。

植物資源科学コースの学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- ・植物資源およびその生産システムに関する基礎学力を有している。
- ・バイオテクノロジーなど先端的な生命科学の知識・技術を修得するとともに、その進展に対応できる応用力を身につけている。
- ・関連産業や自治体の需要に対応できる知識と実践性および倫理性を身につけている。
- ・国際的な場面で活躍できる国際的な感覚と基礎的な語学力を修得している。

森林・環境共生学コースの学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- ・森林の保全・管理・利用、防災工学、農林生産基盤、山岳地域の環境要因と生態系サービス、農村・緑地計画に関する知識を修得している。
- ・恵まれた信州の資源環境および地域社会でのフィールドワーク経験を活かし、専門職業人となるための応用力・行動力を身につけている。
- ・農林業の持続的発展を実現するため、国際的な視野を持つとともに、直面する問題を的確に把握し、解決する能力を身につけている。
- ・自然と共生する美しい循環型社会の創出に対し、科学的・倫理的に貢献できる知識と行動力を有している。

<p>カリキュラム・ポリシー (CP) 教育課程編成・実施方針</p>	<p>学部理念・教育研究目標のもと幅広い基礎知識を学び社会的要請に柔軟に対応でき幅広い領域で応用力を発揮できるとともに学際的視野を広げられる専門知識を修得させるため、以下の特色ある教育課程を編成します。</p> <p>【生命機能科学コース】</p> <ol style="list-style-type: none"> （導入段階）幅広い視野を涵養させるため、生物学、一般化学、外国語科目等の基礎科目に加えて各種教養科目を履修するほか、農学入門や生命機能科学概論を履修し、本学科に必要な基礎学力を養う。 （基礎段階）有機化学、生化学、分子生物学、微生物学などの分野についてバランスよく学ぶと共に、基礎的な実験実習を履修し、化学系と生物系の両方をより深く学ぶための専門的な知識を修得する。 （応用段階）化学系と生物系の専門的な科目を学ぶとともに、専門的な実験・実習を履修し、研究遂行力を修得する。また、学際的視野を広げるため関連する学際融合科目および専門書や学術論文の読解力を涵養するための科学英語についても履修する。 （探究段階）専攻研究を必修科目とし、大学院への進学を視野に課題探究能力、研究課題を完結させる実践力を修得する。 <p>【動物資源生命科学コース】</p> <ol style="list-style-type: none"> （導入段階）幅広い視野を涵養させるため、生物学、一般化学、外国語科目等の基礎科目に加えて各種教養科目を履修するほか、農学入門や動物資源生命科学概論を履修し、本学科に必要な基礎学力を養う。 （基礎段階）遺伝学、免疫科学、動物生理学など、動物の生命現象理解の基礎となる知識や飼科学や動物管理学など、動物資源生産に関する専門的な知識に加え、実験実習を通じて、動物の生命現象解明と生産に必要な技術を修得する。また、関連するコース共通科目を履修し、学際的視野を広げる。 （応用段階）学際融合科目の履修により幅広く、高度な専門的知識を修得するとともに、アニマルウェルフェア科学の履修によって、動物資源生命科学における倫理性を養う。また、科学英語やプレゼンテーション入門、国内外における動物生産現場での実践的実習を通じて、情報発信力や課題発見能力を養う。 （探究段階）大学院進学の土台となるよう、自らの力で研究課題を探索し、その課題を卒業論文としてまとめることで、課題解決の論理力を修得する。さらに、社会の急激な変化と多様化、複雑化、高度化、グローバル化に対応できる高度専門職業人となるべく専攻研究を通じて、探究課題の展開力を修得する。また、先鋭領域特別講義等を履修し、研究開発に関する幅広い視野を修養する。 <p>【植物資源科学コース】</p> <ol style="list-style-type: none"> （導入段階）幅広い視野を涵養させるため、生物学、一般化学、外国語科目等の基礎科目に加えて各種教養科目を履修するほか、農学入門や植物資源科学概論を履修し、本学科に必要な基礎学力を養う。 （基礎段階）遺伝学、植物生理学など、植物資源科学の基礎となる知識や栽培学、土壌学、植物病理学など、植物資源生産に関する専門的な知識に加え、実験実習を通じて、植物の生命現象解明と生産に必要な技術を修得する。また、関連するコース共通科目を履修し、学際的視野を広げる。 （応用段階）園芸学系科目などの具体的な植物資源生産に係る科目の履修によって、実践的な知識を修得するとともに、植物生命科学系科目などの履修により植物科学に関する高度な専門的知識を修得する。また、科学英語やプレゼンテーション入門、国内外における植物資源生産、試験研究の現場での実践的実習を通じて、情報発信力や課題発見能力を養う。 （探究段階）大学院進学を視野に入れて、卒業論文をまとめることで、課題解決の論理力、展開力を修得する。また、先鋭領域特別講義等を履修し、研究開発に関する幅広い視野を修養する。 <p>【森林・環境共生学コース】</p> <ol style="list-style-type: none"> （導入段階）幅広い視野を涵養させるため、数学系、自然科学系科目、外国語科目等の基礎科目に加えて各種教養科目を履修するほか、農学入門や森林・環境共生学概論を履修し、本コースに必要な基礎学力を養う。また、フィールドにおける基礎を学ぶための森林・環境共生学基礎演習を履修する。 （基礎段階）測量学、環境統計学、土質および水理学などの基礎科目、森林科学、防災工学および農村・緑地計画等の専門基礎知識を修得するとともに、演習の履修により理論と実践の結合を行う。また、関連するコース共通科目を履修することで、広く農学に関する知識を身につける。 （応用段階）森林科学、防災工学および農村・緑地計画等のより高度な専門科目を履修し、各専門分野における応用力、研究遂行能力を身につける。また、専攻演習、プレゼンテーション演習、科学英語の履修により、専門書や科学英語の読解力を身につける。学際融合科目を履修し、森林科学の知識と結合することにより、多様な一次産業によって成立する地域社会に貢献できる考えを涵養する。 （探究段階）専攻研究への取り組みにより、専門知識の深化、コミュニケーション、プレゼンテーションの能力を大幅に向上する。
<p>アドミッション・ポリシー (AP) 入学者受入方針</p>	<p>信州大学農学部は、生命科学分野の基礎能力と農学分野の応用力を身につけ、持続的社会の創造に貢献する人間性豊かな専門職業人の養成を目標にしています。</p> <p>そのため本学部では次のような素養を備えた学生を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入学前の高等学校の課程等を能動的に幅広く学び、国語、数学、理科、外国語で学習したことを身につけている ・農学の基礎となる高等学校等で学ぶ数学、物理学、化学、生物学、語学などに優れている ・生命科学や農林業技術に関わるさまざまな現象に興味があり、それらの原理や応用について関心を持つとともに論理的思考力・判断力・表現力等の素養を持ち、これらについて学びたいと考えている ・生命科学や農学分野の実験や実習、講義、課題探求に意欲的に参加できる ・自然と人が共生する持続的社会の創造を目指して、社会に貢献する明確な目的意識を持っている

東京農業大学・東京農業大学短期大学部：大学全体、各学部・学科それぞれのポリシーを設定

◆ 大学全体

<p>ディプロマ・ポリシー (DP) 育成する人材像</p>	<p>東京農業大学（以下、本学という。）は、建学の精神「人物を畑に還す」に基づき、本学での学びを通して「生きる力」を育み、「農の心」をもって社会の発展に寄与する人材を輩出するため、各学部の教育目標に基づいて設置した授業科目を履修して所定の単位数を修得し、卒業論文を提出することを学位授与の要件とするとともに、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。</p> <p>(1) 自然科学・社会科学の両分野にわたる基礎的・基盤的知識の修得と同時に、各学科の目的とする専門的・先進的な知識や技術、コミュニケーション力などの能力を身につけている。</p> <p>(2) 卒業論文の作成を通して、課題探求力、情報収集力、知識の活用力、批判的・論理的思考力、問題解決力、数的処理、文章表現およびプレゼンテーション力などの能力を身につけている。</p> <p>(3) 研究室における諸活動および内外での体験的・実践的諸活動などに基づき、広い視野、異なる文化への理解や関心、他者への柔軟性、自らの意思を適切に表現できる表現力あるいは語学力を有し、地域であるいは海外で、活動しうる能力を身につけている。</p> <p>(4) 「生命」「食料」「環境」「健康」「エネルギー」「地域創成」などに関わる専門性を活かし、学修の成果を実社会に還元し活躍しうる能力を身につけている</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (CP) 教育課程編成・実施方針</p>	<p>本学の教育の理念「実学主義」に基づく総合的な農学教育を根幹として、実践的な専門知識・技術を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1) 基礎的・基盤的知識の修得と農学に係る実践的な専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」、「専門教育科目」の3つの科目区分により授業科目を配当する。また、効果的な学修を行うため、ナンバリングやカリキュラムツリーを用いて学習の順序等を示すなど、各区分内において基礎から応用への段階的な科目配当を行う。</p> <p>(2) 「総合教育科目」には、「導入科目」、「スポーツ関係科目」、「課題別科目」および「就職準備科目」の区分を設け、大学での学修方法等を修得する科目や、専門教育の動機づけとなる授業科目を配当する。また併せて、学修内容を将来の進路に繋げるための準備科目も配当する。</p> <p>(3) 「外国語科目」には、異文化理解および国際的視野を形成するための実践的な語学科目を配当する。</p> <p>(4) 「専門教育科目」には、「専門基礎科目」、「専門コア科目」、「学際領域科目」および「総合化科目」の区分を設け、農学分野の基礎となる科目をはじめ、科学の進歩や社会の要請に応え得る新規性や先進性に富んだ授業科目を配当する。また、実学主義に基づく多くの実験・実習・演習科目と、アクティブラーニングやPBLの手法を取り入れた「研究室における諸活動」、「国内外および学内外の農業実習・研修活動」、「企業・地域・社会連携先との交流活動」等を行う実践的な科目を配当する。「総合化科目」には、4年間の学修の集大成となる「卒業論文」を必修科目として配当する。</p>
<p>アドミッション・ポリシー (AP) 入学者受入方針</p>	<p>本学は、「生命」「食料」「環境」「健康」「エネルギー」「地域創成」をテーマに、農と生命を科学し“生きる”を支える農学の進化に挑戦し、持続的な社会の発展に貢献する人材を養成します。そのため、本学では、次のような学生を求めています。</p> <p>(1) 農学を学ぶにあたり、基礎的学力と必要な知識を有している。</p> <p>(2) 「生命」「食料」「環境」「健康」「エネルギー」「地域創成」などに関心を持ち、地域社会や国際社会で活躍する意欲を有している。</p> <p>(3) 実験・実習・演習等に通じた学びに強い関心があり、多様な人々と協働して学ぶ姿勢を有している。</p> <p>(4) ある事象に対して多面的かつ論理的に考察して自分の考えをまとめ、適切に他者に伝えることができる。</p>

◆ 地域環境科学部

ディプロマ・ポリシー (DP) 育成する人材像	<p>地域環境科学部は、生物に対する深い理解と造詣をもって、ミクロな地域環境問題の解決はもとより、マクロな広域環境問題さらにはグローバルな地球環境問題の解決に貢献できる人材を輩出するため、所定の単位を修得し、卒業論文を提出することを学位授与の要件とするとともに、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。</p> <p>(1) グローバルな視野を持ちながらローカルな地域環境に対する知識をもとに、地域づくりにかかわる諸問題を総合的に捉え理解しうる能力を有している。</p> <p>(2) 環境共生型・循環型の地域づくりに関する諸問題に興味・関心を持ち、その問題を解決する意欲と能力を修得している。</p> <p>(3) 地域環境科学にかかわる多様な事象を総合的に捉え、地域環境と生物資源の保全・利用・管理のための知識や技術・表現力を修得している。</p>
カリキュラム・ポリシー (CP) 教育課程編成・実施方針	<p>地域環境科学部は、本学の教育理念「実学主義」に基づく地域体験型学習を通して、地域問題、環境問題にかかわる実践的な知識・技術・解決力を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) グローバルな地球環境問題とローカルな地域環境の関係、人間活動と自然環境の関わり、地域づくりの理念と目標に関する理解を深める。</p> <p>(2) 実際の地域体験を通じて、地域の自然環境や社会的環境への理解を促し、地域環境や地域問題解決への関心・意欲を高める。</p> <p>(3) 持続可能な地域づくりにかかわる技術者として、人類社会における技術の位置づけと社会的責務および倫理観を修得する。</p>
アドミッション・ポリシー (AP) 入学者受入方針	<p>地域環境科学部は、グローバルな地球環境から、ミクロな地域環境に至るまでの幅広い知識・理解力を有し、様々な環境問題の解決や持続可能な地域づくりに貢献できる人材の養成を目指しています。そのため、次のような学生を求めています。</p> <p>(1) 環境問題や環境共生型・循環型の地域づくり、地域環境と生物資源の保全・利用・管理に興味を持っている。</p> <p>(2) それらの実現に向けて幅広い知識への関心や柔軟な思考力を身につけている。</p> <p>(3) それらの実現に向けてチャレンジする意欲を有している。</p> <p>(4) コミュニケーション力や表現力などの素養を有している。</p>

◆ 森林総合科学科

ディプロマ・ポリシー (DP) 育成する人材像	<p>森林総合科学科では、人間と森林の共生に貢献しうる人材の養成を目的として、カリキュラム・ポリシーに掲げる各講義科目・実習・卒業論文等の指導を通じ、環境保全、資源生産、資源利用、社会・経済の各領域にわたり設置した授業科目を履修し、所定の単位の修得と卒業論文評価基準に基づく審査に合格し、以下の資質・能力を身につけた学生に対し学位を授与します。</p> <p>(1) 森林にかかわる多様な事象を総合的に捉え、社会人としての倫理観を有し、社会の問題を発見する能力を身につけている。</p> <p>(2) 自然環境の保全と循環型社会の創造にかかわる諸問題を総合的にとらえる知識と技術を身につけている。</p> <p>(3) 森林・林業・林産業に関する諸問題を解決する具体的な技術と能力を身につけている。</p> <p>(4) 論文の執筆やコミュニケーション等の能力を身につけている。</p>
カリキュラム・ポリシー (CP) 教育課程編成・実施方針	<p>森林総合科学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ「森林に学び、森林について学び、森林のために学ぶ」姿勢を基本に、林学・林産学の教育を実践するため、それらの専門科目および生物学・化学・物理学・工学・経済学・社会学・教育学等の手法を基礎として、以下の専門科目を配当し、これに従い教育を行います。</p> <p>(1) 森林に関する基礎的事項を共通して理解するための「森林生態学」、「森林保全学」、「造林学」、「林業工学」、「木材工学」、「林産化学」、「森林経営学」、「森林政策学」等の必修科目</p> <p>(2) 森林・林業・林産業等にかかわる専門技術者として必要な能力を向上させるための「林木育種学」、「森林作業システム学」、「野生生物管理学」、「緑化学」、「木質材料学」、「木材保存化学」、「森林情報学」、「森林教育学」等の選択科目</p> <p>(3) 情報収集能力・問題発見能力・解決能力・表現能力等の涵養、実践技術や知識の深化を目的とする「森林学実験実習（一）～（四）」や「演習林実習」等の実習科目</p> <p>(4) 本学科を構成する各分野・研究室に特化し、研究計画の立案、実験・調査等の実施、考察、さらに論文の執筆や発表等を通して、森林・林業・林産業にかかわる総合力を修得するための「卒業論文」</p>
アドミッション・ポリシー (AP) 入学者受入方針	<p>森林総合科学科は、広義の農学を基礎として、本学のアドミッション・ポリシーが掲げる「環境」分野への貢献のために、広く各科目を学んだ者のうち、次のような学生を求めています。</p> <p>(1) 農林業、木材・特用林産物利用、環境保全・防災、農山村地域等、広く森林に関わるものごとに興味・関心を有している。</p> <p>(2) それらについて幅広い知識への関心や柔軟な思考能力を身につける意欲を有している。</p> <p>(3) みどり豊かな国土と健全な地域社会の創造に向けた問題発見能力や問題解決能力を身につけることを希望している。</p> <p>(4) それらの実現に向けてチャレンジする意欲を有している。</p>

◆ 短期大学部全体

ディプロマ・ポリシー (DP) 育成する人材像	<p>短期大学部は、建学の精神「人物を畑に還す」に基づき、本学での学びを通じて幅広い知識と応用力を育み、自らの感性と体験を通じて得た「生きる力」をもって、農業およびその関連産業で活躍できる人材を輩出するため、以下のいずれかの能力を備えた学生に学位を授与します。</p> <p>(1) 生物生産分野における専門的、実践的知識とその応用力を身につけている。</p> <p>(2) 緑豊かな生活環境の創造分野における専門的、実践的知識とその応用力を身につけている。</p> <p>(3) 醸造・食品製造分野における専門的、実践的知識とその応用力を身につけている。</p>
カリキュラム・ポリシー (CP) 教育課程編成・実施方針	<p>短期大学部は、教育の理念「実学主義」に基づき、農学に関する実践的、専門的な職業教育を施し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 幅広い知識と教養を身につけるため、専門科目の導入的な科目を学部共通科目として配当する。</p> <p>(2) 専門知識の修得に必要な基礎となる科目を「専門基礎科目」に配当する。</p> <p>(3) 専門知識を深く理解するための専門・応用科目を「専門コア科目」に配当する。</p> <p>(4) 実践的な技術と応用力を修得するため、「専門基礎科目」及び「専門コア科目」には実践的な科目を配当する。</p>
アドミッション・ポリシー (AP) 入学者受入方針	<p>短期大学部では、人間生活に直接かかわる食料生産、環境や食品などの実際的な課題に興味を持ち、その問題解決に向けて意欲的に取り組み、社会に貢献できる人材の養成を目指します。そのため、本学では次のような学生を求めています。</p> <p>(1) 農業（畜産を含む）または関連産業の後継者になろうとする意欲がある、また生物生産業または関連産業の経営者、指導者、技術者を目指している、さらに動植物に興味と関心を有し、身につけた知識と技術で社会に貢献しようとする意欲がある。</p> <p>(2) 公園、庭園、里地・里山および自然植生などの緑地、植物・昆虫・動物、生物多様性などの自然環境分野ならびに環境問題に興味・関心を持ち、時代の要請に則した緑豊かな生活環境の創造、自然との共生を実現するために努力を惜みず、知識・技能を身につけようとする意欲がある。</p> <p>(3) 醸造、食品、微生物、食品分析、食の機能性、環境などに興味を持ち、醸造および食品業界の発展ならびに食の安全、安心の担保に意欲がある。</p>

◆ 環境緑地学科

ディプロマ・ポリシー (DP) 育成する人材像	<p>環境緑地学科は、「緑豊かな生活環境の創造」という基本理念に基づき、環境緑化・造園、自然環境、動植物調査等の緑地環境計画・保全の専門分野における知識・技能を有し、実際的な思考と応用力、行動力を持った人材を輩出するため、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。</p> <p>(1) 緑豊かな生活環境創造のための実践的活動において、協調性と高い倫理性をもって自律的・継続的に行動する能力を身につけている。</p> <p>(2) 緑地環境調査・計画・管理に関する諸問題を論理的に説明し、解決するための専門知識や技術を身につけている。</p> <p>(3) 地域における環境保全のための実践的な調査活動、創造・管理計画に関する情報収集力、コミュニケーション力、分析・解析力、プレゼンテーション力などの能力を身につけている。</p>
カリキュラム・ポリシー (CP) 教育課程編成・実施方針	<p>環境緑地学科は、基礎理論に裏打ちされた思考から現場での問題解決能力や応用能力の修得を目指し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 緑豊かな生活環境創造に必要な基礎科学と基礎技術に関連する科目を配当する。</p> <p>(2) 緑豊かな生活環境創造に必要な関連諸知識と技術およびそれらを応用して問題を解決する実践力を身につけるための科目を配当する。</p> <p>(3) 設定目標の実現や問題解決のために相手を理解・評価し、自分の考えを伝えるとともに誤りを訂正する能力（理解力、発表力、討議力）を身につけるための科目を配当する。</p> <p>(4) 設定目標の実現や問題解決のための課題を設定し、それについて具体的に取り組み、まとめ、発表する能力を身につけるための科目を配当する。</p>
アドミッション・ポリシー (AP) 入学者受入方針	<p>環境緑地学科は、人と自然との良好な共生を目指し、その実現に向けた社会の構築に貢献できる人材の養成を目指します。そのため、本学科では次のような学生を求めています。</p> <p>(1) 地球環境問題や生態系、自然を構成する動植物に興味・関心を持ち、時代の要請に則した緑豊かな生活環境の創造に必要な専門的知識、技術を学ぶための基礎的な学力や技術を身につけている。</p> <p>(2) 現在の自然・生活環境の問題点について真剣に考え、それらを改善するための実際的な緑地の設計や樹木の植栽などの専門的知識、技能・技術を修得する意欲がある。</p> <p>(3) 修得した専門的知識や技術・技能を活かし、緑豊かな生活環境の創造や自然との共生のための施策の立案とその実現において、関連する多種多様な人々とコミュニケーションをとり、協働しながら事に当たる姿勢を身につけている。</p> <p>(4) 修得した専門的知識や技術・技能によって、緑豊かな生活環境の創造や自然との共生のための具体的な景観の空間設計や計画立案をすることができる。</p>

共愛学園前橋国際大学：大学全体のポリシーを設定（一部コースの内容に関する項目あり）

◆ 大学全体

<p>ディプロマ・ポリシー (DP) 育成する人材像</p>	<p>本学は、学則に定める在学期間を満たし、かつ共愛コア科目・外国語科目・専門科目・演習科目・个性的選択科目などからなる所定の124単位を修得した学生に対し、下記に掲げる能力を獲得したと認定し、学士（国際社会）を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会の諸課題への対応能力 2. 国際社会と地域社会の関連性についての識見 3. 問題を発見し解決するための分析能力・実践的技能 4. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力 <p>また、各自の専門性を養うため、コースごとに身につける素養を定めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■英語コース 国際社会で十分に活躍することができ、世界から情報を得ることができる実践的・総合的な英語能力の獲得と、幅広い教養と実務能力を養う ■国際コース 国境を越えて生きていくための「旅する力」「取材力」「異文化適応能力」を身につけ、将来、国際社会、国際化する企業、教育現場、地域社会で活躍できる力を養う ■情報・経営コース 幅広い知識の上に高度な専門性を身につけたスペシャリストになるため、広い視野と現場に即した実践力・社会適応能力・ビジネス社会をけん引する行動力を養う ■心理・人間文化コース 心理学や多様な文化について学び人間への理解を深めること、他者とふれあうためのコミュニケーションの力、関心のある領域や将来の進路を見つけることができる力を養う ■児童教育コース 国際的な視野を持ちながら地域社会の課題と向き合っ、様々な教育現場で子どもたちの学びを支援できる人材となるよう、小学校教員としての即戦力、小・中学校教員としての専門力、小学校英語に対応できる英語力、地域とともに子どもを支援する実践力を養う
<p>カリキュラム・ポリシー (CP) 教育課程編成・実施方針</p>	<p>本学では、「共愛＝共生の精神」という理念を共有し、「国際社会の在り方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材の養成」という教育の目的を達成するために、次の5つを教育の基本に据えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教に基づく全人教育 2. 国際性豊かな人材養成 3. 学究的精神並びに態度の涵養 4. 知恵ある人の育成 5. 実社会との主体的な交流・体験の機会提供 <p>この教育の基本を実践し、身につけるべき素養を涵養できる学びの環境を整えるために、全学生が履修する「共愛コア科目」をカリキュラムの中心に据え、最主要科目として「課題演習（ゼミ）」と「卒業研究（卒論）」を必修科目に位置付けています。</p> <p>さらに、本学には5つのコースが用意されています。各コースには、それぞれのコースの目標に即して「コース専門科目」が設定されており、各コースが履修モデルとして機能しています。</p> <p>本学のコース制は、自分が履修するコース以外のコースの専門科目を「自由選択科目」として履修できるように設計されているので、自分のコースのカリキュラムで専門性を獲得しながら、同時に他のコースの科目で幅広い知識を身につけることができます。</p>
<p>アドミッション・ポリシー (AP) 入学者受入方針</p>	<p>1888年（明治21年）に設立された共愛学園は、百二十余年にわたり共愛の精神をその教育の柱に据えてきました。</p> <p>本学は、共愛の精神とはすなわち、今日的に換言すれば共生の精神であると捉え、「共愛＝共生の精神」を建学の理念としています。</p> <p>また、本学に設置される国際社会学部は、「国際社会の在り方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材の養成」を目的としています。</p> <p>この理念と目的をふまえ、本学では次のような素養をもつ人物の入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分と他者を愛し、社会と共に生きていこうとする精神をもっている人 2. 常に世界に視野を広げながら、地域社会を大切に思う人 3. 自ら主体的に学ぶ意欲があり、他者と協力して学習・活動に参画できる人 4. 大学での学びに必要な能力—基礎的な学力、コミュニケーション力、思考力、文章力、問題発見力など—をもっている人 5. スポーツや芸術、社会活動に積極的に取り組んでいる人 6. 本学と志望するコースの教育内容をよく理解したうえで、本学と志望コースでの学修を強く望んでいる人

金沢工業大学：大学全体、各学科それぞれのポリシーを設定（※大学全体のみ掲載）

◆ **大学全体**

<p>ディプロマ・ポリシー (DP) 育成する人材像</p>	<p>本学の建学綱領に掲げる「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学共同」の理念に基づき「自ら考え行動する技術者」となるために、豊かな教養と社会で活躍できる以下の能力を身につけ、卒業要件を満たした者に学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野の知識を修得し、それらを知恵に転換できる能力 ・地域社会や産業界が持つ多様な問題を発見し、それらを解決できる能力 ・世代・分野・文化を超えた価値観を共有し、イノベーションを実現できる能力
<p>カリキュラム・ポリシー (CP) 教育課程編成・実施方針</p>	<p>学位授与方針に掲げる能力を身につけるための教育課程（修学基礎教育課程、英語教育課程、数理基礎教育課程、基礎実技教育課程、専門教育課程）を以下のとおり編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史観、世界観、倫理観ならびに使命感を包含した人間力を身につけるとともに、生涯にわたり学修する姿勢を育成するための修学基礎教育課程 ・グローバルに活躍するためのコミュニケーション能力を修得するための英語教育課程 ・専門分野において求められる数理基礎能力を修得するための数理基礎教育課程 ・社会で求められるイノベーションを効果的に実践する手法を学ぶための基礎実技教育課程 ・専門分野における基礎理論、および高度な専門知識と技術を修得するための専門教育課程 <p>これらの教育課程のもとで以下の教育を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム学習やアクティブラーニングにより自ら学び主体的に活動する能力を育成するための初年次教育 ・修得した知識を知恵へ転換し、問題発見・問題解決能力を育成するためのプロジェクトデザイン教育 ・技術者を取巻く社会環境を理解し、技術者に求められる素養・能力を育成するためのキャリア教育 ・Conceive（考える）、Design（設計する）、Implement（実行する）、Operate（運用する）を重視して国際的に通用する創造する力を身につけるための総合教育 ・イノベーションを可能にする世代・分野・文化を超えた共創教育 <p>これらの教育実践を通して得られる学修成果は、多面的な評価方法（試験、クイズ・小テスト、レポート、成果発表、作品、ポートフォリオ等）に基づき総合的に評価される。学科及び課程の教育課程の編成及び実施に関する方針は、大学の教育課程の編成及び実施に関する方針に従い別途定める。</p>
<p>アドミッション・ポリシー (AP) 入学者受入方針</p>	<p>金沢工業大学は、建学の綱領に掲げる「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学協同」の理念に基づき「自ら考え行動する技術者」の育成を教育の目標としています。本学は、自らが持つ資質や多様な能力を向上させようとする意欲と共に、ものづくりに対する興味や科学技術への探求心を持った者の入学を期待しています。</p> <p>【求める学生像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本学で学ぶ目的や意義が明確な者 <ul style="list-style-type: none"> 進学目的が明確で、新しい価値の創造に知的好奇心を持つ者 理工学の知識を役立て、幅広く社会で活躍する技術者を目指す者 科学技術とその応用分野に関心を持ち、ものづくりに積極的にチャレンジする者 ○本学の教育システムを積極的に活用できる者 <ul style="list-style-type: none"> 本学の教育システムの特徴や仕組みを理解し、効果的に活用することで自らの能力を高める意欲のある者 他者と積極的に関わり、チームで協力して学修することに興味のある者 ○科学技術を学び応用するために求められる基礎学力を身につけている者 <ul style="list-style-type: none"> 理数系科目の学習を好み、本学の修学のために必要な基礎学力を身につけている者 社会に関心を持ち、多様な情報から自らの意見をまとめて表現するために必要な英語や国語、地理歴史、公民、情報等の基礎学力を身につけている者

【入学までに身につけておくべき能力】

高等学校卒業までに、理工学を学ぶうえで基本となる基礎学力（数学、理科、英語、国語、地理歴史、公民、情報等）を幅広くしっかりと学習していることが必要です。
入学試験では次のような能力を中心に評価します。

専門高校特別選抜

専門高校の教育特色を重視し、面接、志望理由書、調査書等に基づき、主に科学技術とその応用分野に関心を持ち、ものづくりに積極的にチャレンジする姿勢や意欲を評価します。ならびに問題発見から解決にいたる過程と方法の実践経験、論理的思考力（発想力、批判的思考力、構成力、展開力、判断力、表現力および発信力）、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶための共創力について評価します。

目的志向型入学（AO入学）

面談、小論文、エントリーシートの内容に基づき、主として本学で学ぶ目的や意義と、自らの能力の向上を目指す意欲を実現するための明確な活動計画を評価します。ならびに問題発見から解決にいたる過程と方法の実践経験、論理的思考力（発想力、批判的思考力、構成力、展開力、判断力、表現力および発信力）、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶための共創力について評価します。

推薦試験

学校長の推薦をふまえ調査書、志望理由書に基づき、主として高等学校における学習成果と本学で学ぶ目的や意義、自らの能力の向上を目指す意欲を総合的に評価します。ならびに問題発見から解決にいたる過程と方法の実践経験、論理的思考力（発想力、批判的思考力、構成力、展開力、判断力、表現力および発信力）、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶための共創力について評価します。

一般試験

高等学校で学習する知識・技能を重視し、学力試験と調査書等に基づき、科学技術を学び応用するために求められる基礎学力について評価します。

センター試験利用

高等学校で学習する知識・技能を重視し、学力試験と調査書等に基づき、科学技術を学び応用するために求められる総合的な能力について評価します。